

平成 30 年 4 月 24 日

2018 年度血小板委員会活動報告書

血小板委員会委員（9 名）：高橋幸博(委員長)、石黒 精（委員）、小林尚明(委員)、國島伸治(委員)、笹原洋二(委員)、前田尚子(委員)、森 麻希子（委員）今泉益栄（委員）、東川正宗（委員）

オブザーバー：別所文雄、白幡 聡、中舘尚也

小児難治性 ITP ガイドライン作製 外部評価委員：宮川義隆

血小板委員会会議開催

第 1 回会合

- 1) 日 時：2017 年 6 月 18 日（日）12：00～13：00
- 2) 場 所：聖路加国際大学 大学本館 602
- 3) 〒104-0044 東京都中央区明石町 1 0-1

報国事項：

- ① リツキシマブ(リツキサン)の小児難治性 ITP へ保険収載の報告
- ② 新規血小板委員、森 麻希子委員（所属先：埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科）の紹介
- ③ ITP の国際標準化と免疫グロブリン 1g/kg 投与に関して中舘尚也委員から報告。
- ④ 患者用、家族用用の ITP パンフレットの進捗を報告。
- ⑤ 先天性血小板減少症の調査について國島委員、笹原委員から報告（表）

協議事項：

1. 小児難治性 ITP ガイドライン（案）

ガイドラインに向けて難治性の定義、小児での脾摘術の治療選択について協議

① ガイドライン推奨度

国際比較も考慮し AHA のガイドライン推奨度を参考に血小板委員会として用い、エキスパートオピニオン・ベースで推奨。

② リツキシマブ・トロンボポエチン受容体作動薬

小児への投与について協議

臨床使用報告されており、委員会として学会を通じ、公知申請あるいは小児への適応拡大へ進める

③ 経口薬エルトロンボパグ

東アジア系人と欧米人との代謝代謝の相違から投与量について協議
TPO 受容体作動薬の経口薬エルトロンボパグの使用時にあたり、食事制限があることから栄養面への影響も考慮が必要。

④ セファランチンについて

EBM が不十分であるが、国内使用実態を考慮し、今回の小児難治性ガイドラインへの選択薬の取り扱いについて協議。また、成人難治性 ITP に対して使用されている他の免疫抑制薬の取り扱いにも協議。

これら薬剤について協議し、ガイドライン（案）を修正し、再度協議。

第 2 回会合

日 時：2017 年 11 月 9 日（木）12：00～13：00、第 4 会議室

場 所：ひめぎん（ホール愛媛県県民文化会館）

〒790-0843 愛媛県松山市道後町 2 丁目 5-1

報告事項：

小児難治性 ITP ガイドライン修正案

協議事項：

1. 小児難治性 ITP 治療ガイドライン（案）について協議
2. 平成 30 年度からの血小板委員会 委員長の任期満了に伴う
次期委員長の選出の件
高橋幸博が任期満了に伴い、次期委員長に石黒 精（委員）を推薦
3. 國島伸二委員の異動に伴う、先天性血小板減少症の解析体制
國島伸二委員の異動に伴い石黒 精委員の施設で新たに技術移管を行い
先天性血小板減少症の解析窓口を以下の 3 名の委員とする。
体制に関してはさらに詳細に詰めて次回の会議で報告
 1. 笹原洋二委員（東北大学医学部 小児科）
 2. 國島伸二委員（岐阜医療科学大学 保健科学部）
 3. 石黒 精委員（国立成育医療センター 血液内科）

なお、当初 2017 年度に案作成を予定していたが、小児への用法・用量の再検討、漢方薬のガイドラインへの追記などの取り扱いについても協議したことから小児難治性 ITP 治療ガイドライン 2018（案）とした。今度、日本小児血液・がん学会への報告、さらに、ガイドライン委員会を経て、パブリック・オピニオンを得る予定。

表 平成 29 年度の先天性血小板減少症の診断解析結果

1. 笹原洋二委員の解析結果

解析数 10 件

確定診断例 4 例

XLT (WAS 遺伝子変異) 1 例

CAMT (MPL 遺伝子変異) 1 例

FPD/AML (RUNX1 遺伝子変異) 1 例

THC (ANKRD26 遺伝子変異) 1 例

不明 (検査中も含む) 6 例

2. 國島伸二委員の解析結果

解析数 15 件

確定診断例 9 例

MYH9 8 例

2B VWD 1 例

不明 (検査中も含む) 6 例

以上